

抵抗性高血圧に対する腎除神経で有意な降圧示せず

腎除神経（腎神経焼灼術）は、治療抵抗性高血圧の新たな治療法として期待されているもので、先行の非盲検臨床研究において同治療法が降圧に有効であることが示された。そこで、本研究では偽治療群を設定した単盲検ランダム化比較試験を実施し、その効果を検討した。

全米 88 施設から登録された 535 例を、腎除神経群（364 例）と偽治療群（171 例）に 2 : 1 にランダムに割り付けた。腎除神経群には腎血管造影と腎神経焼灼術を、偽治療群には腎血管造影のみを施行した。6 か月後の診察室収縮期血圧の低下は、腎除神経群で 14.13mmHg、偽治療群で 11.74mmHg となり、それぞれ治療開始前からは有意に下降していたが、降圧度の相違は -2.39 mmHg と両群に有意差はなかった（ $P=0.26$ ）。この結果から、治療抵抗性高血圧患者への腎除神経は対照治療と比べて有意な降圧効果が得られないことが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2014; 370: 1393-1401